

古墳を発見!

じ そ う どう い せ き

地蔵堂遺跡の発掘調査

—南小学校校舎建設に伴う調査—

地蔵堂遺跡は、本市地蔵堂に広がる古墳や寺院跡、集落跡（古墳時代、平安時代、中世）の遺跡で、熊野街道が通る交通の要衝に位置しています。

今回の調査は、遺跡の範囲に含まれる南小学校の運動場部分に建設する校舎建設に先だって行いました。これまでも校舎、体育館建設などで発掘調査を行っており、古墳時代中期（5世紀ごろ）の円墳2基（1号墳、2号墳）、方墳2基（3号墳、4号墳）を発見しています。南小学校の近くには古墳時代前期（4世紀末）に造られたと考えられる市域唯一の前方後円墳「地蔵堂丸山古墳」があり、小学校内で発見された古墳は丸山古墳を中心とした古墳群であることがわかっています。

今回の調査では、これまで発見した古墳のつづき（2号墳）と新たに円墳2基（5号墳、6号墳）を発見しました。埋葬施設（まいそうしせつ）は削り取られてわかりませんが、周溝からは古墳に供えたと考えられる土器（須恵器、土師器）が多数出土しており現在、遺物整理しているところです。

2号墳

この古墳の規模は、周溝も含めた直径が14m、周溝の断面はU字形で深さ0.3~0.5mです。墳丘（古墳の土を盛り上げた部分）は中世のころには削り取られて平坦となっていたと考えられ、埋葬者を葬った主体部（しゅたいぶ）と呼ばれる施設などは確認できませんでした。周溝からは土師器（はじき）、須恵器（すえき）といった古墳に関する土器が出土しています。

土坑

20枚以上の土師皿が納められた土坑です。直径0.3m、深さ0.15mで建物を建てる際に地鎮（じちん）を行ったと考えられます。



5号墳

この古墳は、約2分の1検出しています。周溝も含めた直径は約16m、周溝は断面U字形で周溝の深さは0.3~0.6mです。墳丘（古墳の土を盛り上げた部分）は中世のころには削り取られて平坦となり、平坦となった部分からは柱穴を多数検出しており、建物が建てられていたと考えられます。



また、これらの古墳時代の遺構は、中世（鎌倉～室町時代）のころに削り取られて平坦な土地となっていたことが明らかになりました。掘立柱建物が建てられ、集落の一部として開発されたことがわかりました。井戸、溝、柱穴、土坑などを多数検出しています。柱穴が多数検出していることから、建物が数多く建てられ、建替えが行われたことが想像されます。遺物は、青磁、白磁といった輸入陶磁器や瓦器、土師器、瓦質土器などの日用雑器、建物に使用された瓦などが出土しています。

井戸

この井戸の規模は直径1.5m、深さ2.5mです。井戸内からは、瓦器、土師器、瓦質土器といった中世の土器が出土したほか、樹木の幹や松葉なども多数出土しています。



6号墳

調査区の端で検出した古墳の周溝です。検出した周溝の規模から古墳の大きさを復元すると直径20m以上となり、南小学校の調査で発見した古墳では最大規模になると考えられます。

6号墳

特別展「貝塚寺内の武士と町人 願泉寺ト半家の家来衆と貝塚寺内の商家」開催

平成16年1月24日から3月28日にかけて「貝塚寺内の武士と町人 願泉寺ト半家の家来衆と貝塚寺内の商家」と題した特別展を貝塚市郷土資料展示室において開催しました。

平成14、15年度に、貝塚寺内地域の町家10軒33棟が新たに国の登録有形文化財になりました（テンプス14号参照）。本展は、これを記念して、貝塚寺内の武士や町人にスポットを当てて、各家の紹介とその所蔵する文化財資料約40点を展示しました。展示では、新たに発見した並河（なみかわ）家の屋敷図や尾食（おめし）家の普請帳を展示に際して調査したことで、口伝とは異なる各家の建築年代を確定することができました。また、宇野（うの）家の狂言装束や江戸時代の泉南地域を代表する文化人の里井浮丘（さといふきゅう）や日根対山（ひねたいざん）との交流を示す吉村家の書簡など、貝塚寺内の文化的側面の一端をうかがうことができる資料も展示しました。展示中には「かいづか歴史文化セミナー」として、大阪市立大学教授 塚田 孝氏による記念講演「江戸時代の宗教領主」ほか2講演を開催しました。塚田氏の講演では、江戸の浅草寺（せんそうじ）や現大阪府和泉市の榎尾山などと比較しながら、宗教領主という位置づけで江戸時代の貝塚寺内および願泉寺ト半家の支配の特色についてお話しいただきました。



特別展の展示図録を刊行しました。本書では、登録文化財の町家10軒および出品資料の写真と解説を掲載しています。

お求めは社会教育課または郷土資料展示室まで。一部400円



並河家住宅の建築年代

並河家所蔵の絵図から

特別展に先立つ調査で、並河家には、1840（天保11）年の記載のある屋敷の再建図が3枚残っていることがわかりました。「並河屋敷地絵図」（右写真）、「並河再建地面絵図」と「並河彦左衛門屋敷再建地面之図」です。「並河再建地面絵図」は、現在とほぼ同じ間取りの主屋と、その裏手に蔵、味噌部屋が描かれています。「並河彦左衛門屋敷再建地面之図」は、屋敷地が2分割され、町人「亀屋宗兵衛」と「河内屋弥兵衛」の名前が記されており、現在の屋敷地がもと町人の屋敷地で、再建以前の屋敷地は別の場所にあったことがわかります。そして、「並河屋敷地絵図」は屋敷地の坪数と裏手の「かき（垣）筋」の位置が描かれたシンプルなものですが、本紙の右に「天保十一庚子年六月九日棹入」（棹入＝屋敷地の測量）と書かれていることから、同家住宅の建築年代は1840年6月9日以降になることがわかります。



並河家住宅主屋の建築年代はこれまで1832（天保3）年と伝えられ、建築様式的にも19世紀の建築とみて妥当であることから、既刊の報告書やテンプス14号でも同年の建築として紹介してきました。しかし、今回紹介した絵図の発見により、並河家住宅主屋の建築年代は1840年6月9日以降であることが明らかになりました。

企画展1 「ニチポー貝塚 バレーボールチームの軌跡」開催

平成16年4月5日 から5月9日 にかけて、企画展1「ニチポー貝塚 バレーボールチームの軌跡」を貝塚市郷土資料展示室において開催しました。

本展では、大日本紡績株式会社貝塚工場の建設から金メダルに輝いた昭和39（1964）年の東京オリンピックまでのニチポー貝塚女子バレーボールチームの歴史・軌跡を紹介しました。「東洋の魔女」とその名を世界に知らしめた昭和36（1961）年の欧州遠征時のユニフォーム、翌年の第4回世界選手権大会時の書簡など、50点余りの資料を展示しました。

展示会初日には、東京オリンピックに日本女子代表として出場した丸山（旧姓磯辺）サタ氏が見学に訪れました。この見学の際、ご所蔵の金メダルをお借りすることとなり、第4回世界選手権大会および東京オリンピックの金メダル（右写真）を追加展示しました。

見学していただいた方の中には、貝塚工場で働いていた方、東京オリンピックや貝塚での凱旋パレードを実体験した方も多く、「寮では（キャプテンの）河西さんの隣だったのよ」、「このパレード、私も見に行ったのよ。昔の貝塚駅もなつかしいねえ」など、それぞれの思い出と照らし合わせながら展示を楽しんでいただけたようです。25日間で約600人の来館者数を数えました。



企画展2 「願泉寺に残る本願寺門主の絵画 平成15年度貝塚市指定文化財の紹介 - 」のお知らせ

平成16年6月5日 から7月25日 にかけて、「願泉寺に残る本願寺門主の絵画 平成15年度貝塚市指定文化財の紹介 - 」と題する企画展を開催します。

平成15年度の市文化財として、願泉寺蔵の本願寺歴代門主画像23組26幅を指定しました（テンプス16号参照）。本展では、3期にわけ、6月5日 から6月20日 までは東西分派以前の門主画像6組9幅を、6月23日 から7月8日 までは西本願寺の門主画像8幅を、7月10日 から7月25日 までは東本願寺の門主画像9幅をそれぞれ紹介します。展示する資料には、「真向等身御影（まむきとうしんごえい）と呼ばれる正面向きの親鸞聖人（しんらんしょうにん）画像や、全国で4例しか確認されていない観如上人（かんにょしょうにん）画像（右写真、東本願寺第12代教如の第2子）などの珍しい絵画類があります。また、近世を通じて東西本願寺の歴代門主の画像が残っているのは全国で願泉寺のみです。今回展示する絵画類の半数以上は、本展が初公開となります。展示期間は短いですが、ぜひともこの機会にご観覧ください。



展示期間中の催し

第65回かいつか歴史文化セミナー

日 時：平成16年6月20日 午後2時～4時
場 所：貝塚市民図書館2階視聴覚室
内 容：「貝塚市内に残る真宗絵画と書跡」
講 師：岡村喜史氏（龍谷大学講師）



第66回かいつか歴史文化セミナー

日 時：平成16年7月4日 午後2時～3時30分
ただし、集合・受付開始は午後1時30分からです。

集合・解散：貝塚御坊願泉寺境内（右写真）

内 容：見学会「願泉寺の指定文化財」

本堂、太鼓堂、書院については内部も公開いたします。

講 師：社会教育課学芸員

いずれも参加費は無料です。ただし、見学会につきましては、必要事項（住所、氏名、電話番号）を明記の上、はがき、Email、FAX、電話いずれかの方法で、申込み連絡先まで事前にお願ひします。

平成16年度展示会のお知らせ 貝塚市郷土資料展示室

貝塚市郷土資料展示室では、平成16年度も上記企画展のほか、郷土貝塚に関する展示会を予定しています。7月以降に開催する内容、日程は以下の通りです。

「貝塚の指定文化財」展

第 期：平成16年8月1日 ～平成16年8月29日

第 期：平成16年12月4日 ～平成17年1月9日

内 容：貝塚市指定文化財の紹介展。考古資料および古文書のほか、パネルにてその他の分野の指定文化財を紹介します。



展示風景

特別展「貝塚生まれの俳人 原コウ子」(仮称)

会 期：平成16年9月4日 ～平成16年11月7日 (予定)

内 容：俳人原石鼎(せきてい)の妻で、石鼎亡き後俳句結社「鹿火屋(かびや)」を主宰した大阪府泉南郡貝塚町(現貝塚市)出身の俳人「原コウ子(1896～1988)」の生い立ちから軌跡、俳人そして女性としての生き方、郷土との関わりを展示紹介します。

特別展「地蔵堂丸山古墳と大阪の前期古墳」(仮称)

会 期：平成17年1月15日 ～平成17年3月27日 (予定)

内 容：平成14年度の発掘調査で、円筒埴輪列と葺石を確認した地蔵堂丸山古墳と大阪府下の前期古墳を比較検討し、大阪府下における丸山古墳の位置づけについて展示紹介します。

11月中旬～下旬(2週間程度)は、市民図書館による展示を開催。

上記以外の期間は展示替えのため休室。

古文書講座

「お伊勢さんと御師 江戸時代の旅と信仰」開催

平成16年1月17日から4回にわたり、「お伊勢さんと御師 江戸時代の旅と信仰」と題して古文書講座を開催しました。

近年まで、関西や東海方面の小学生が修学旅行で行く機会の多かった地が伊勢神宮です。この伊勢神宮への旅のルーツは古く、古代には天皇家の氏神として祀られ一般の参詣は禁じられていましたが、鎌倉時代初期になるとこの制度が緩み貴族や武士が参詣するようになりました。そして、室町時代には領主を通じて領内の農民の信仰を集めていきました。さらに、江戸時代には「御師」が旅の宣伝マンとして全国各地の村々をまわり、「伊勢参り」を勧誘したことから、民衆の間に浸透し、「一生に一度は」をキャッチフレーズに、全国から参詣者を集めました。とくに約60年ごとに、御札が降ったとして、誰も彼もが思い思いに出掛け、道中で互いに助け合いながら参詣する「おかげまいり」が大流行するなど、人びとの心を引き付けました。

このように、江戸時代の庶民にとって旅と信仰とが結びついた「伊勢参り」について、いくつかの関連のある古文書を解説することで、当時の様子に触れていただきました。

なお、古文書を全く読めない方にも参加していただけるように、講座の前に初心者講習を開催しました。くずし字辞典のひき方やよく使われる語句・部首のくずし方のほか、古文書の様式など、古文書を読むための基本をお伝えしました。



講座で使用した古文書



講座風景

次回古文書講座開催のお知らせ

「江戸時代の婚礼 結納から結婚式まで - 」

江戸時代の百姓や町人の結婚に関するしきたりや手続きなど、当時の婚礼記録を通して、現代社会との相違点を見ていきます。

日時：8月21日 - 初心者講習、8月28日 - 第1回、9月4日 - 第2回、9月11日 - 第3回、9月18日 - 第4回、いずれも土曜日午後2時～4時30分

場所：貝塚市民図書館2階視聴覚室

申込：必要事項（住所、氏名、電話番号）を明記の上、はがき、Email、FAX、電話いずれかの方法で、下記申込み連絡先まで事前にお願ひします。

申込み連絡先

〒597 - 8585 大阪府貝塚市畠中1 - 17 - 1 貝塚市教育委員会 社会教育課
TEL 0724 (33) 7126 / FAX 0724 (33) 7107
Email shakaikyoiku@city.kaizuka.jp

市内の古文書調査から

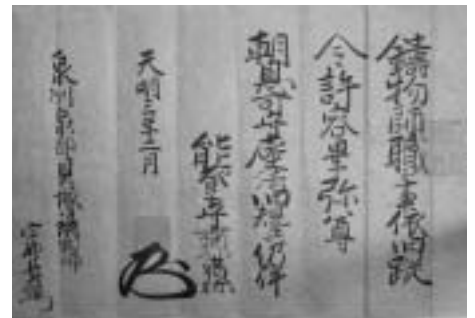
教育委員会では、貝塚市に関わる古文書を調査し、歴史をひも解く作業をおこなっています。ここでは、平成14、15年度に国の登録有形文化財になった家で、今年の1月から3月にかけて開催しました郷土資料展示室特別展「貝塚市内の武士と町人 願泉寺ト半家の家来衆と貝塚寺内の商家」で展示し、調査を行なったもののうち、2件の古文書を紹介します。

うの 宇野家文書

貝塚寺内の北寄り、紀州街道に西面する旧家が宇野家です。この家に保管されてきた江戸時代の古文書類27点を調査しました。

宇野家は、もと金屋長右衛門家（かなやちょうえもんけ）の分家で、製粉業を営んでいました。本家の長右衛門家は、江戸時代を通じて鑄物（いもの）業を営み、京都の真継（まつぎ）家支配のもと泉州鑄物師仲間（せんしゅういものじなかま）に所属していました。1887（明治20）年ごろに長右衛門家の家業を引き継ぎ現在に至っています。

調査により確認された古文書類には、本家から引き継いだ江戸時代に鑄物業を行なうにあたって、京都の真継家より下付された「鑄物師免許状」（右上写真）のほか、朝廷（ちょうてい）に献上した灯籠（とうろう）に対して真継家より渡された「感状（かんじょう）」などが見られます。分家のものと思われる「水車稼鑑札（すいしゃかせぎかんさつ）」は、製粉業（水車の力で石臼をまわして、粉を挽いた）のなごりを示しています。



おめし 尾食家文書

貝塚寺内の北端、紀州街道と北境川との交差する「上方口」の橋のたもとにある旧家が尾食家です。この家に保管されてきた江戸時代から昭和10年代にかけての古文書類816点を調査しました。

尾食家は、屋号を「尾食佐近右衛門（おめしさこえもん）」といい、江戸時代を通じて旅籠屋（はたごや）や両替商（りょうがえしょう）を営み、幕末には肥料商や木綿仲買なども営んでいました。明治時代に入ってから質屋業を営んでいました。

調査により確認された古文書類には、大福帳や普請帳などの帳簿類や証書類など（上写真）、当時の家業に関わる史料が大きな割合を占めています。その中に見られる岸和田藩主から尾食佐近右衛門にあてて出された「黒印状（こくいんじょう）」は、極楽寺村（現在の岸和田市極楽寺町）新田の諸役（年貢以外の江戸時代の租税）を免除する内容で、このことは新田地主として土地経営にたずさわっていたことを示しています。また、70枚を超える「地子米皆済切手（じしまいかいさいきって）」（寺内の土地にかかる税金）は貝塚寺内にもたくさんの土地を持ち、借家経営を行っていたこともわかります。



編集後記

テンプスは市内の文化財情報をより多くお知らせするため、今年度より、年2回から年4回の発行とするとともに、ますます内容を充実させていきたいと考えています。

かいづか文化財だよりテンプス17号



平成16年5月31日発行
貝塚市教育委員会
〒597 8585 貝塚市畠中1丁目17-1
Tel (0724) 33-7126 Fax (0724) 33-7107
Email: shakaikyoku@city.kaizuka.osaka.jp
印刷 和歌山印刷所
テンプスとはラテン語で「時」を意味します。
年4回発行：各1,000部
印刷単価：67円